

平成25年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 25 年 8 月 24 日

国立天文台長 殿

代表者	氏名	(ふりがな) なかがわ けいすけ 中川 恵介		
	所属・職	新潟大学大学院 自然科学研究科		
	電話	025-262-7387	E-mail	keisuke@astro.sc.niigata-u.ac.jp
研究集会名	第43回天文・天体物理若手 夏の学校			
開催期間	2013年 7月 29日 ~ 2013年 8月 1日			
開催場所	宮城県 宮城蔵王ロイヤルホテル			
参加人数	347名			
研究集会の概要	<p>天文・天体物理若手夏の学校（以下、夏の学校）は日本国内の若手研究者に研究発表と交流の場を提供することによって、参加者の研究の促進、若手研究者同士の交流を深める、の2つを主な目的としている。第43回の夏の学校は、7月29日から8月1日の3泊4日の日程で、宮城県の宮城蔵王ロイヤルホテルにて開催された。夏の学校の運営は若手研究者が担っており、第43回の夏の学校は北海道大学、弘前大学、東北大学、新潟大学、筑波大学、茨城大学の大学院生が運営を行った。</p> <p>上記の2つの目的を達成するため、下記の分科会・企画を開催した。特に研究の向上に関しては、若手研究者が特定の領域に捕らわれない幅広い視野と知見を得るために幅広い分野からの発表のある研究会にし、最先端の研究に触れて新しい知識を増やし刺激を受けるために各分野の第一線で活躍されている研究者を招待講師として招いて講演をしていただいた。</p> <p>1. 分科会 研究分野ごとに、「重力・宇宙論」、「コンパクトオブジェクト」、「宇宙素粒子」、「太陽・恒星」、「銀河・銀河団」、「星間現象」、「星形成・惑星系」、「観測機器」の8つの分科会により構成された。各分科会内では、参加者による口頭発表、ポスター発表、招待講師による招待講演が行われた。</p> <p>2. 全体企画 本企画は「夏の学校の今後を考える」というタイトルで、近年の夏の学校の大規模化に伴う事務局の負担の大きさに注目し、今後夏の学校が取るべき対策について議論を行った。</p> <p>3. 懇親会 他の参加者や招待講師の方々と交流する機会を用意することで、共に研究をする仲間を増やし、研究意欲を高めることを目指した。</p>			

研究集会の成果

今年度の夏の学校は、招待講師23名を含む合計347名の参加者を迎えて開催された。3泊4日の合宿の中で、講演や議論、交流を活発に行うことができた。アンケートの結果、日程などの開催形式、プログラム集、会場設備に関し、多くの人に満足してもらえた。一方で、参加費用や会場アクセスには不満の割合が多かった。参加者の参加した意義は「自分の研究の進展や全国の若手研究者との交流」と回答した学生の割合が多かった。多くの参加者の研究意欲をかきたて、他分野への興味・知識の獲得に貢献できた。

分科会・全体企画は、いずれも盛況であった。口頭発表は142件、ポスターセッションは105件と、スケジュールを圧迫することなく、多くの若手研究者が発表と議論の場を持つことができた。招待講師の方からも興味深いお話を伺うことができ、今後の研究活動に有意義なものとなった。

また、今年度は「研究会の質の底上げ」を掲げ、いくつかの試みを実施した。一つに、修士学生の口頭発表を無条件に優先させるという方針を撤廃した。また発表者の準備不足解消のため、集録の事前提出を実施した。これに関しては、準備が大変だったという意見が多く出され、集録提出の締切時期に課題を残した。また、セッション終了後に質問時間を別途設け、発表者と十分に議論できる時間を確保した。アンケートには、78%の参加者が非常に良い・良いと回答しており、議論が活発になった等の意見があった。ポスターセッションにおいては、発表者と直接議論できるように、連絡板のようなメモを設けたが、これはあまり利用されなかった。さらに、ポスターアワード受賞講演も新たに行った。これに関しては講演を聴講した参加者全員が参加して良かったと答えており、成功であったと言える。

全体企画では、夏の学校を運営する事務局員の大きな負担を問題点として掲げ、負担軽減の対策についての議論を行った。運営の現状と負担軽減策案とそのメリット、デメリットを紹介してから議論を行ったため、参加者からも多くの実のある意見が寄せられた。具体的には会場を数年周期で固定する、事務局を人数の多い大学が行う等の意見が出された。本企画中に取りべき対策の結論は得られなかったが、企画後のアンケートでは、参加者の85%が夏の学校の運営と負担について理解が深まったと回答し、74%が事務局の負担が大きいと考えていることがわかり、事務局が抱える問題を参加者と共有することができた。

今年度新たに行った取り組みに関しては、アンケート結果を十分反映させ今後の夏の学校がより良いものになるよう努力していきたい。

<p>その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)</p>	<p>夏の学校では、例年遠方からの参加者に対し旅費補助をおこなっており、参加者アンケートでは、参加者の71%が旅費の補助が必要であると答えている。また参加者の40%が、旅費補助が受けられない場合、夏の学校の参加が困難となると回答しており、これは夏の学校からの旅費補助の必要性を強く示している。</p> <p>今年度の夏の学校では、予稿集の一部電子化により作成費を約17万円削減するなどして経費の削減に努め、その結果123人の旅費補助を希望する参加者の個人負担額は昨年よりも約1万円減らし6.5千円となった。しかしながら、参加費を含めた、参加者の金銭的負担はまだ大きく、これからも経費の削減と参加者の金銭的負担の軽減に努めていきたい。</p> <p>貴研究機関から頂く補助金は夏の学校の安定した運営には欠かせないものとなり、来年度以降も継続的なご支援をいただければ幸いです。最後に貴研究機関の援助に対して深く御礼申し上げます。</p>
---	--